



第24回山階芳麿賞 岡ノ谷一夫博士への贈呈を決定しました

- ・ 第24回山階芳麿賞を岡ノ谷一夫（おかのや・かずお）博士（帝京大学特任教授・東京大学名誉教授）に贈呈することを決定しました
- ・ 山階芳麿賞はわが国の鳥学および鳥類保護に顕著な功績のあった方（団体を含む）をたたえる賞で、1992（平成4）年から実施しています

「山階芳麿（やましな・よしまろ）賞」は、日本の鳥学および鳥類保護に顕著な功績のあった者（団体を含む）をたたえ、わが国の鳥学の発展ならびに鳥類保護の振興に寄与することを目的に、1992（平成4）年、山階鳥類研究所財団設立50周年を記念して設けたものです。賞の名称は、山階鳥類研究所の創設者、山階芳麿博士の功績を記念しています（添付資料（3）参照）。主催は公益財団法人山階鳥類研究所、株式会社朝日新聞社が共催しています。



岡ノ谷一夫博士

（帝京大学特任教授・東京大学名誉教授）

岡ノ谷一夫博士は、日本の伝統的飼鳥であるジュウシマツを対象として、さえずりにみられる複雑な歌系列、すなわち複数の音が多様に組み合わせられて歌を形づくる仕組みを明らかにしました。また、原種との比較研究から家禽化にともなう脳と行動の変化を示されました。これらの研究を通じて後進の教育・育成にも尽力されました。山階芳麿賞選考委員会は、これらの功績が山階芳麿賞にふさわしいものと判断し、第24回山階芳麿賞を岡ノ谷一夫氏に贈呈することにいたしました（添付資料（1）贈呈理由参照）。

贈呈式は、7月24日（金）に山階鳥類研究所の東日本・中部日本地区賛助会員の集いに合わせて行います。

TOPIC

受賞を記念してシンポジウム「鳥の歌が拓いた音声コミュニケーションの科学」を開催します

- ・ 日時：2026年9月12日（土） 13：30～16：00
- ・ 場所：東京大学弥生講堂
- ・ 共催：朝日新聞社
- ・ 後援：我孫子市（予定）

本件についてのお問い合わせ先：

公益財団法人 山階鳥類研究所（千葉県我孫子市高野山115）

電話：04-7182-1101

担当：広報 山岡（E-mail：pressrelease@yamashina.or.jp）

- ・ 写真のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。



岡ノ谷一夫氏への山階芳麿賞贈呈理由

山階芳麿賞選考委員長 小川博

岡ノ谷一夫氏は、日本の伝統的飼鳥であるジュウシマツを対象としてさえずりにみられる複雑な歌系列、すなわち複数の音が多様に組み合わせられて歌を形づくる仕組みを明らかにしました。

さらに、ジュウシマツとその原種であるコシジロキンバラとの比較研究を通じて、家禽化（家畜化）にともなう脳と行動の変化を明らかにし、ジュウシマツの歌を制御する脳構造に関する神経科学的知見や、家禽化が社会性に影響を及ぼすことを示されました。また、家禽化に伴って現れる歌や行動の変異が、Wilkinsonらの提唱する「家畜化症候群」に合致することを示し、ジュウシマツとコシジロキンバラのストレス耐性、新奇恐怖、攻撃性などの比較研究へと発展させました。これらの成果は家禽化による行動の複雑化を示す代表的研究として高く評価されており、単なる分類学的事実の確認にとどまらず、家禽化が鳥の歌の学習・脳・社会行動にどのような影響を与えるのかを科学的に検証するための基盤研究となり、この分野の今後の発展に大きな意義を持つものです。

近年では、鳥類の音声学習に関わる神経機構、とくに聴覚情報と発声運動の対応を担うミラーニューロン様の神経活動に着目し、ジュウシマツの脳内で歌の知覚と産出がどのように結びつけられているのかを明らかにする研究を進めておられます。

以上の業績はいずれも、鳥のさえずりを通じて、音声学習、音声コミュニケーション、ひいては言語の起源と進化を考えるうえで重要な手がかりを与えるものとして世界的に高く評価されています。また、岡ノ谷氏の研究が契機となり、欧米を含む多くの研究室がジュウシマツを研究対象とする流れを生み出しました。さらに、岡ノ谷氏はこれらの研究を通じて後進の教育・育成にも尽力され、多くの研究者が氏のもとから巣立っています。

以上のように、岡ノ谷氏は当該分野における世界の研究を牽引し、鳥類学の発展に大きく貢献されました。山階芳麿賞選考委員会は、これらの功績が山階芳麿賞にふさわしいものと判断し、第24回山階芳麿賞を岡ノ谷一夫氏に贈呈することといたしました。



第24回山階芳磨賞 受賞者について

岡ノ谷一夫 博士 おかのや かずお

1959年7月16日 栃木県生まれ

専門：生物心理学

1983年 慶應義塾大学文学部社会・心理・教育学科卒業

1989年 メリーランド大学大学院心理学研究科生物心理学専攻修了、Ph.D.

1989年 日本学術振興会特別研究員・上智大学博士研究員

1990年 科学技術庁科学技術特別研究員・農林水産省農業研究センター鳥害研究室兼任職員

1993年 井上科学財団特別研究員（井上フェロー）・慶應義塾大学心理学研究室訪問研究員

1994年 千葉大学文学部助教授

2004年 理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー

2010年 東京大学大学院総合文化研究科教授

2022年 帝京大学先端総合研究機構教授

2025年 帝京大学先端総合研究機構特任教授

【主な著書】

『岩波科学ライブラリー92 小鳥の歌からヒトの言葉へ』（岡ノ谷一夫 2003 岩波書店）

『さえずり言語起源論』（岡ノ谷一夫 2010 岩波書店）

『言葉はなぜ生まれたのか』（岡ノ谷一夫・石森愛彦 2010 文藝春秋）

『言葉の誕生を科学する』（小川洋子・岡ノ谷一夫 2011 河出書房新社）

『「つながり」の進化生物学ーはじまりは、歌だった』（岡ノ谷一夫 2013 朝日出版社）

『脳に心が読めるか』（岡ノ谷一夫 2017 青土社）

『人間の心がわからなかった俺が、動物心理学者になるまで』（岡ノ谷一夫 2025 新潮社）

【受賞】

2001年 American Psychological Association 米国心理学会・最優秀比較心理学論文賞 「鳥類の音声知覚」の論文に関して

2009年 日本科学技術ジャーナリスト会議・科学ジャーナリスト賞 書籍「ハダカデバネズミ」の出版に関して

2009年 中山人間科学振興財団・中山賞大賞受賞 「言語の生物学」への貢献に関して

2011年 日本動物行動学会・第1回日高敏隆賞受賞 「動物行動学関連の著作・講演活動」に関して

2012年 財団法人ニューロクリアティブ研究会・創造性研究褒賞 「脳と創造性に関する基礎的な研究」に関して



【その他】

2008年 日本学術会議連携会員

2012年 Evolang IX 言語の起源と進化に関する国際会議・大会長

2017年 読売新聞読書委員

2022年 JCoLE 言語の起源と進化に関する3学会国際合同会議・大会長

2023年 IBAC2023 生物音響学国際会議・大会長



やましなよしまる
山階芳麿賞について

山階鳥類研究所は、1992（平成4）年7月に行われた財団創立50周年記念行事の一環としてこの賞を設けました。日本の鳥学および鳥類保護に寄与された、山階鳥類研究所の創設者・故山階芳麿博士の功績を記念して、この賞を「山階芳麿賞」と名づけました。

山階芳麿賞は、日本の鳥類の研究および鳥類保護に顕著な功績のあった者をたたえ、わが国の鳥学の発展ならびに鳥類保護の振興に寄与することを目的としています。

受賞者は「山階芳麿賞」選考委員会で選考されます。受賞者は、隔年度、原則として1名とし、選考の結果該当者がいない場合には、その年度の表彰は行いません。選考委員会は学識経験者その他、理事長が必要かつ適格と判断する者（5～12名）で構成されます。

表彰は山階鳥類研究所総裁・秋篠宮文仁皇嗣殿下が行い、受賞者には表彰状と山階芳麿賞記念メダルが贈呈されます。記念メダルのデザインは、表・山階芳麿博士肖像、裏・ヤンバルクイナのレリーフとなっており、受賞年と受賞者氏名が刻印されます。ヤンバルクイナは沖縄県で発見され、1981（昭和56）年に山階芳麿博士らが新種として発表した山階鳥類研究所のシンボルの一つです。なお、2003（平成15）年度からはさらに副賞として「朝日新聞社賞」（賞金50万円と盾）が贈られています。

歴代の受賞者は下記のとおりです。

回数	受賞年	氏名・団体名(敬称略)	所属・職名	備考
第1回	1992	羽田健三	信州大学名誉教授	1994年11月逝去
第2回	1993	松山資郎	山階鳥類研究所顧問	2000年8月逝去
第3回	1994	中村司	山梨大学名誉教授	2018年11月逝去
第4回	1995	黒田長久	山階鳥類研究所所長	2009年3月逝去
第5回	1996	中村登流	上越教育大学名誉教授	2007年11月逝去
第6回	1997	正富宏之	専修大学北海道短期大学教授	
第7回	1998	樋口広芳	東京大学大学院教授	
第8回	1999	山岸哲	京都大学大学院教授	
第9回	2000	藤巻裕蔵	帯広畜産大学教授	
第10回	2001	小城春雄	北海道大学大学院教授	
第11回	2002	中村浩志	信州大学教授	
第12回	2003	石居進	早稲田大学名誉教授	2024年6月逝去
第13回	2004	由井正敏	岩手県立大学教授	
第14回	2006	長谷川博	東邦大学教授	
第15回	2008	立川涼	愛媛大学名誉教授	2017年5月逝去
第16回	2010	森岡弘之	国立科学博物館名誉研究員	2014年12月逝去
第17回	2012	日本イヌワシ研究会	—	
第18回	2014	(特別賞)橘川次郎 (特別賞)小西正一	クイーンズランド大学名誉教授 カリフォルニア工科大学名誉教	2016年5月逝去 2020年7月逝去
第19回	2016	上田恵介	立教大学名誉教授	
第20回	2018	江崎保男	兵庫県立大学教授 兵庫県立コウノトリの郷公園統括研究部長	
第21回	2020	渡辺茂	慶応義塾大学名誉教授	
第22回	2022	日本雁を保護する会	—	
第23回	2024	内藤靖彦	国立極地研究所名誉教授	

※受賞者の所属・職名は受賞当時